

1 単元名 その時、命を守る！ ～いつか起こる地震のために～

2 単元設定の理由

我が国日本は、四方を海に囲まれており、その海から多くの恩恵を受けている。また、美しい自然にも恵まれており、海外から多くの観光客も訪れている。しかしその一方で、大きな自然災害が発生することもある。平成23年3月11日に発生した東日本大震災ではマグニチュード9.0という凄まじい地震と、それに伴う津波によって多くの死傷者、行方不明者を出し東北地方に甚大な被害をもたらした。今なお復興に向け、さまざまな活動がなされている。また記憶に新しいところでは今年の4月16日に熊本県を中心とした地域でもマグニチュード7.3という大きな地震が発生し、多大な被害をもたらした。このような地震による被害をテレビ等で目の当たりにする機会が増えたことにより、人々の防災に対する気持ちは否応なしに高まった。私たちの住む千葉県を含む首都圏は、今後30年以内に大規模な地震が起こると予想されて久しい。防災については例年避難訓練を実施しているが、学校にいて、大人が身近にいるという状況下以外でも地震に遭遇する可能性は常に存在している。地震発生時に、どうすればよいのかを考える学習は、どの学校においても必要であるといえる。この学習を通して児童自身が自らの命を守り、また身近な人たちの命をも守る方法を身に付けてほしいと考えた。

本単元では、児童が学習したことを実生活に生かすことができるよう、2サイクルで取り組む。

第1次では、児童が震災に遭遇した瞬間の対応や震災後の行動、その後の避難生活などこれまでの震災において起こった事象から得られた被災時に有効な手段や、事前しておくべき対策などについて調べる。その活動を通して児童は自身や、身近な人々の「命を守る」ための方法を知識として蓄積できるようにしていきたい。学習活動としては、地震の揺れの記憶を思い出したり、地震の映像資料を観たりする。また災害想定クエスチョンに取り組み、児童の地震に対する認識について考えさせ、ただ知識を増やすための学習というのではなく、知識の蓄積が実際に自分や身近な人たちの「命を守る」ことにつながるということを意識させたい。

第2次では、地域に目を向けて学習活動を進めていく。地域に住んでいる千葉市の港湾局で所長を務められた方よりお話を伺い、第1次で学習してきたことがこの地域ではどのように生かすことができるのかを考えたり、地域の方たちと共に実際に街に出て、震災が起こった際に危険な場所などを伝えたりする活動を行う。高洲地区は東日本大震災当時、被害が少なかったということもあり、防災に対する意識が低いといわれている。そこで児童との関わりを通して、地域の防災意識を高められるような発信をしていきたい。また児童が自ら発信していくことで地域の防災により主体的に学んでいけると考えた。

3 児童の実態について (男子15名 女子13名 計28名)

○事前アンケート

総合的な学習の時間は得意ですか？

とても得意	どちらかという得意	どちらかという苦手	苦手
4人	12人	10人	2人
理由			
○得意・どちらかという得意			
・調べて、いろいろなことが分かるのが楽しい。			
・発表することが好き。			
・友達の発表を聞くのが楽しい。			

○どちらかという苦手・苦手

- ・何を調べたらよいのかわからない時がある。
- ・まとめることが難しい。
- ・必要な情報が分からない時がある。
- ・発表することが苦手。

総合的な学習の時間で好きな活動はなんですか？

課題設定	情報収集	整理・分析	まとめ・発表	学んだことを生かす
1人	17人	1人	6人	3人

理由

- ・調べていろいろなことが分かる。(情報収集)
- ・発表することが好き。(まとめ・発表)
- ・4年生の学習で、学んだことを生かしてエコを心掛けている(学んだことを生かす)

総合的な学習の時間に取り組んできたことで、自分に身に付いた力はなんですか？

課題設定	情報収集	整理・分析	まとめ・発表	学んだことを生かす
3人	10人	5人	6人	4人

理由

- ・何を調べたらよいのか少し分かるようになってきた。(課題設定)
- ・何回も調べているから、やり方が分かった。(情報収集)
- ・どんな情報が必要なのか少しわかってきた。(整理・分析)
- ・ポスターや新聞などにまとめてきたから。(まとめ・発表)
- ・友達の発表を聞いて生活に生かすことができたから。(学んだことを生かす)

大きな地震が来たら、怖いですか？

とても怖い	怖い	怖くない	どちらでもない
7人	13人	1人	7人

大きな地震が起こったときどんなことが起こると思いますか？(複数回答可)

津波がくる 23人	建物・道路の破壊 23人	たくさんの人が亡くなる 3人	土砂崩れ 3人	火災 3人
液状化現象 3人	物が落ちてくる 5人	水や食べ物がなくなる 2人	停電 2人	洪水 1人

地震発生時に備えて準備はしてありますか？(複数回答可)

食糧 13人	懐中電灯 5人	ヘルメット 2人	リュック 2人	突っ張り棒 1人
水			(中身は分からない)	
ラジオ 2人	布団 1人	着替え 1人	特にしていない 8人	

大地震が発生したら、助かることはできそうですか？

絶対できる	たぶんでできる	たぶんでできない	絶対できない	分からない
10人	11人	1人	0人	6人

理由

○絶対できる・たぶんでできる

- ・避難訓練をやっているから。
 - ・食べ物などの準備がしてあるから。
 - ・先生の指示に従えば大丈夫。
 - ・自分の身は自分で守れる。
- たぶんできない・絶対できない
- ・津波がすごいから。
- 分からない
- ・すごい地震が想像できない。
 - ・いつ、どこで起こるか分からないから。
 - ・学校以外で起こったら、どうなるか分からない。

本学級の児童は、明るく活発で好奇心が旺盛な児童が多く、新しいことを知ったり、できることを増やしたりすることに意欲的である。総合的な学習の時間については「とても得意」、「どちらかというと得意」と答えている児童が若干多いものの「どちらかというと苦手」「苦手」と答える児童と、およそ半数ずつとなっている。また「総合的な学習の時間」の中で好きな活動についての質問では「情報収集」と答える児童が57%と最も多く、次いで「まとめ・発表」が21%であった。これは、「総合的な学習の時間を通して身につけている力は何か」という質問の回答の結果とほぼ一致する。「課題設定」や「整理・分析」といった、より能動的な態度が求められる学習に対して苦手だと感じている傾向があると考えられる。

地震についてのアンケートでは、「大地震が起こったら、怖いか」という質問に対して、71%が「怖い」「とても怖い」と答えた。「どのようなことが起こると思うか」では、「津波」や「建物の倒壊」、「液状化現象」という答えが多かった。その一方で「準備をしているか」の質問に対しては25%の児童が「何もしていない」と答えた他、「家の人がやっているようだ」と答えており、地震に対する恐怖心はあるものの防災については、ぼんやりととらえていることが伺える。また、「大地震が起こったら、自分が助かることができるか」という質問についても71%が「助かることができる」と答えているが、その理由は「避難訓練をちゃんとやっている」「先生の指示に従う」というものであった。「分からない」と答えた児童の中には「学校以外で起きたらどうなるのか分からない」と、学校以外でも巨大地震に遭遇する可能性を考えているようであるが、そうした事態を想像している児童は少なく、漠然と助かることができると考えている。地震というものが、児童が思っている以上に身近な危険として存在していることを意識させ、自らや、周りの人たちの「命を守る」ことに少しでもつながっていくような学習にしていく必要があると考える。

4 単元の目標

- 地震が起きた際の身の守り方や、避難の仕方などを考えたり、意識したりすることができる。
- 「命を守る」ことについて調べて得た情報を整理・分析し、より相手に伝わりやすくまとめ、発信することができる。

5 評価基準

気づく力	追究する力	表現する力	生かす力
・被災した場合、「命を守る」ために自分に何ができるのかを考えることができる。	・「命を守る」ための情報を収集し、整理・分析することができる。	・相手や目的に応じて表現方法を考え「命を守る」方法を発信することができる。	・学んだことをもとに、将来地震に遭遇した時に、何ができるか考える。 ・地震について様々な考え方やものの見方を学ぶ中で、自分の意見や考えを深める。

6 指導計画（22時間）

過程	主な学習活動	学習形態	・教師の支援 ☆観点別評価	時数
興味・関心をもつ	<p>第1次</p> <p>○災害想定クエスチョンに取り組み、話し合いをする。</p> <p>○過去の震災の映像などを見て、地震の恐ろしさを改めて知り、自身の体験なども思い出させながら、これからの学習に対して興味・関心をもつ。</p> <p>○「命を守る」ためになにが必要なのかを話し合う。</p>	全体	<p>・災害想定クエスチョンでは、自分のとった行動の理由を説明するよう伝える。</p> <p>・地震の映像を見せたり、どのような被害があったのかを児童に伝えたりする。</p> <p>・今、実際に大地震に遭遇した場合、何をすればよいのか、何が 필요한か思いつくことを話し合うよう伝える。</p>	1
課題を設定する	<p>○地震発生の際に、どうすれば「命を守る」ことができるのかを考えながら前時での活動を踏まえ課題を決め学習の計画をたてる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難の仕方グループ ・非常食グループ ・防災グッズグループ ・地震対策グループ ・震災ボランティアグループ ・地震の歴史グループ ・地震の仕組・被害グループ 	個人	<p>・自分が意欲的に学習を進めることができるような課題にするよう声をかける。</p> <p>☆気づく力</p> <p style="text-align: center;">【ワークシート】</p>	1
情報を収集する	<p>○同じ課題をもつ友達とグループを作り学習の計画を立てる。</p> <p>○「命を守る」ことについて自ら設定した課題をPCや本などを使い、情報を収集する。</p>	グループ	<p>・予めサイトや、本を選定しておき、効率よく学習を進められるようにしておく。</p> <p>☆追究する力</p> <p style="text-align: center;">【活動の様子】</p>	4
整理し分析する	<p>○、学習発表会でこれまで学習してきたことを伝えるということを確認する。</p> <p>○各グループで収集した情報について整理する。</p> <p>○収集した情報の中から、個人で伝えるべきだと思う情報を決める。</p> <p>○個人で決めたことをもとにグループで話し合い、学習発表会での発表すべき事柄を決める。</p>	グループ	<p>・児童がどのような情報を得ているのかを整理させる。</p> <p>・一人一人が意見を持てるよう支援する。</p> <p>・グループ内でそれぞれが持っている情報について話し合い、伝えたいことを決定するよう伝える。</p> <p>・話し合いの内容が、テーマや課題から逸れてしまいそうなときは課題やテーマに</p>	1(本時)

			戻って話し合いを進めるよう助言する。 ☆追究する力 【発言・ワークシート】	
まとめる・発表する	○学習発表会に向けて準備・発表の練習を行う。	グループ	・聞き手に伝わるような発表の仕方、掲示物等の作り方など、他教科で学習してきたことを生かせるよう助言する。	5
	○学習発表会で発表を行う。	グループ	・より良い発表になるように各グループや個人に支援する。	
課外	第2次 ○地域の方から東日本大震災時の高洲での被害や、高洲でどのようなことが起こると予想されているのか話を聞いたり、サバイバルキャンプを行ったりする。 ・液状化について。 ・高洲地区の特徴について。 ・考えられる被害について。	グループ	・地域の方と連携をし、話していただく内容や、質問等の調整を行い、児童の関心が地域の防災に向くようにする。	3
課題を設定する	○前時までの学習をもとに、新たな課題を設定する。 ・自分たちだけで「命を守る」ことはできるのかな。 ・学校のみんに伝えるだけでいいのかな。 ・地域の人に伝えてみたい。	グループ	・高洲の町で大震災が発生した時に、どうすればみんなが「命を守る」ことができるかということを考えて課題を設定させる。 ☆気づく力 【ワークシート】	1
整理・分析する	○どのようにして、地域の方たちに発信していくのか話し合い、計画を立てる。	グループ	・地域の方との連携を密にし、児童が目的をもって活動できるようにする。 ☆追究する力 【発言・態度】	4
まとめ表	○地域の方と一緒に高洲地区を歩き、大地震の際に危険な場所や、避難場所などを伝える。 ・ここは壁が崩れてきそうだから避難するときは気を付けたほうがいいと思います。 ・この辺りは液状化現象を起こしたところで	グループ	・調べて得た情報を発信するように伝える。 ・活動の際、安全に気を付けて行うよう伝える。 ☆追究する力	2

現 す る	す。 ・ここは上の方から物が落ちてくるかもしれな いから、気を付けてください。		【活動の様子】
	○これまでの学習を振り返る。 ・災害想定クエスチョンを行い、学習前と学習 後の自分の変化について話し合う。	個人	・学習前と学習後の、児童自 身の変容について振り返ら せるようにする。 ・今後の生活に生かす気持ち が持てるよう助言する。 ☆生かす力 【発言・ワークシート】

7 研究主題との関連

【視点1 「ひと・もの・ことにかかわる探究的な学習」】

○地域の人との防災を通じたかかわり

本単元では、常に児童が地震に遭遇した時「命を守る」ためにはどのようにすればよいのかを意識させていく。「命を守る」というと、自らの命と考えることが当然であるが、自分以外の命を守るために様々な対応策や、準備を行っている人たちが地域にはいる。その地域の方から話を聞いたり、共に防災について考えたりする場を持つことで、自分の地域の防災に目を向け、自分の身近に地震というものが存在し、自分の住む地域、自分のいる場所で何が起り何ができるのかなど、児童にとって自分自身にかかわることであると捉えることができると考える。また、地域の人々に発信するという目標を持つことによって、より探究的な学習になると考える。このような学習活動を通して児童のみならず地域の安全・防災意識を高めたい。

【視点2 子ども自身が、自分の成長を実感できる評価の工夫】

○児童が自身の変容を感じられる評価の工夫

本学級の児童は実態から、漠然と大地震に遭遇しても助かることができると考えている。しかしながら、実際には知識や訓練、日ごろの準備なくしては身の安全は覚束ない。第1次では「災害想定クエスチョン」をはじめと情報収集を行ったあとに行う。地震・防災についての知識を得る前と得た後に「災害想定クエスチョン」を行うことで児童は、自らの大地震や、大地震による災害などに対する意識の変化を視覚的にも感覚的にも実感でき、さらに友達とも共感できるだろう。第2次では、地域に対して目を向けていくことで、これまでは自分たちの生活の場でしかなかった地域において危険な場所や、安全な場所はどこなのかといった視点で地域を見ることができるようになるだろう。

8 本時の展開

(1) 本時の目標

○聞き手が地震に対して危機感を持てるような発表をするためにグループで話し合い、必要な情報を整理することができる。

(追究する力)

(2) 展開(7/22)

学習活動と内容	○指導上の留意点 ◇評価【評価の方法】
1 前時までの学習をふりかえる。 ・大地震の時にはこんな被害が起こる。	○前時までに、児童がどのようなことを調べ、自分たちがどのような情報を持っているのかを全体で確認

<ul style="list-style-type: none"> ・地震の時の被害は・・・ ・地震が起こった時のためにできる対策は・・・。 ・地震が発生した場合の安全な避難の仕方は・・・。 ・必要な非常食の量は・・・ ・防災グッズについて ・ボランティアについて <p>2 本時の学習について全体で確認する。</p>	<p>する。</p>
<p>聞いている人が地震について、危機感を持てるような発表の内容を考えよう。</p>	
<p>3 これまでの学習で得た情報をもとに個人で、伝えたい内容を整理し、決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校で先生が近くにいない場合どうするかについて。 ・子供一人分の非常食の量について。 ・普段からできる準備について。 ・地震が起こった瞬間の行動について。 ・どんな防災グッズを用意しておくのかについて。 ・これまでに発生した地震について。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前に児童が調べたことについて項目化したものを掲示用とプリントで用意し、伝えたいことを決めやすいようにしておく ○伝えたい内容を決定する際は、なぜ伝えたいと思ったのかも併せて言えるように指導する。
<p>4 個人で決めたことをもとに、発表に向けてどのような内容を伝えるべきかをグループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で決めたことを付箋紙に書いて、分類する。 ・伝える内容について話し合う。 <p>【話し合いのポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見をはっきり伝える。 ・なぜその内容にしたのか理由を伝える。 ・友達の話は最後まで聞く。 ・友達の意見を聞いて考えが変わってもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合う前に、話し合いの仕方やポイントを全体で確認する。 ○グループ全員が意見を言うことを伝える。 ○論点の修正が必要だったり、決めきれなかったりした時のみ助言するなど、児童中心に話し合いが進むよう配慮する。 <p>◇伝える相手を意識して集めた情報を整理することができる。</p> <p style="text-align: right;">【ワークシート・発言】</p>
<p>5 グループで決まったことを全体で共有する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震にあった時の身の守り方は実際にやって見せて、みんなに知ってもらいたい。 ・事前に準備しておく物を伝えたい。 ・学校の中での避難の仕方を、みんなに知ってもらいたい。 ・自分の家ですぐにできる防止対策の仕方を伝えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他のグループの発表内容について、関心を持って聞くよう助言する。
<p>6 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードに今日の学習について、分かったことや感じたことを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の意見や考えを認めている児童がいたら、称賛する。